



## Secreted form of EphA7 in lung cancer

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2018-09-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 坪井, 優 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10271/00003398">http://hdl.handle.net/10271/00003398</a>

## 論文審査の結果の要旨

Erythropoietin producing hepatocellular 受容体 (EPH) ファミリーは、受容体型チロシンキナーゼであり、種々のがんの発生から進行までの様々な過程に関与することが知られている。今回、肺癌由来細胞株における EPHA7 の転位についての実験過程で、分泌型 EPHA7 の転写産物 (EPHA7-S) を見出した。そこで、ヒト肺癌における EPHA7-S の発現状況を検討した。

転位による EPHA7 の融合相手を探索すべく、肺癌細胞株を用いて 3'-RACE 法により調べた結果、融合相手を見出すことは出来なかったが、第 5 エクソン末端に第 5 イントロン of 配列が続く転写産物を同定した。解析の結果、細胞膜貫通ドメイン～細胞内ドメインを欠く分泌型 EPHA7 と考えられた。そこで、この発現を RT-PCR で各種癌細胞株、ヒト肺癌組織で調べたところ、大腸癌や胃癌の細胞株では検出されず、肺癌細胞株で高率に検出された。また、ヒト肺癌組織のうち、非腺癌の 8/23 例 (扁平上皮癌: 6/17 例、小細胞癌: 1/2 例、大細胞癌: 1/4 例) に認められたが、腺癌では、2/50 例にしか認められなかった。性別、ブリンクマン指数 (BI) あるいは TNM 分類と EPHA7-S 発現との間に関連性は認められなかった。

審査員は、ヒト固形腫瘍 (肺癌) において EPHA7-S の存在を初めて見出したこと、肺癌の中でも非腺癌に有意に高く発現していることを発見したことを高く評価した。

以上により、本論文は博士 (医学) の学位の授与にふさわしいと審査員全員一致で評価した。

論文審査担当者 主査 前川 真人  
副査 尾島 俊之 副査 千田 金吾